


ふりがな 氏名	もりた じゅんいち	都道府県	愛知県	
	森田 淳一			
所属/肩書	岡崎市立竜南中学校／教諭			
私の ESD活動	中学校における ESD 活動の研究実践 ～社会科と総合的な学習の時間を核として～			

防災共同学習での授業風景

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

ESD 研究を進めるようになった契機は、ESD 日米教員交流プログラムに参加したことでした。それまでも、中3の社会において公共バスの存廃問題から、地域社会の持続可能性を探る学習に取り組む活動や、総合学習において、「賛成？ 反対？ 臓器提供」と題して、ドナーファミリー・コーディネーター・移植患者の方に聞き取り調査を行いながら、医療制度の持続可能性を考える活動に取り組むなど研究を進めてきました。そして、このプログラムに参加して渡米した際に、アメリカの学校制度や環境学習を見聞することができました。ここで感じたことは、「ESD を広めることが、持続可能な社会を次の世代へ橋渡しすることへとつながる」ことです。また、国内でも仲間のネットワークができ、研究を ESD とつなげていきたいと考えるようになりました。

本校の特色ある学びとして、環境・防災学習と、社会科における ESD 教育があります。環境教育の分野では、岡崎市環境学習プログラムの編集委員として、カーボンフットプリントやバイオリージョンマップ等を活用した授業づくりに携わり、実践に取り組んでいます。このプログラムは現在、市内の全公立小中学校を挙げて取り組んでいる環境学習プログラムとなっています。

また、防災学習では、先述の交流プログラムで築いたネットワークを活用し、被災地を生徒とともに訪れて共同授業に取り組んだり、津波からの復興について追究活動を行ったりしています。これらの活動から、人と人、人と自然、人と社会のつながりが持続可能な社会づくりに欠かすことができないと考えるに至りました。まとめとして、防災フェスタを開催し、地域とのつながりを重視する視点を生徒が共有することができました。この活動から、現在、防災学習チャレンジプランに参加しています。本年度はさらに、社会科の学習において「裁判員制度」を教材化し、社会制度の持続可能性を考える学習にも取り組んでいます。

・岡崎市 環境学習プログラムについて：<http://www.city.okazaki.aichi.jp/700/740/742/p011690.html>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

ESD の発展のために、果たすべき役割は、「つながり」の再構築だと考えています。

人間関係が希薄になり、隣人すら知らないという状況も生まれてきています。個人主義に陥り、社会の中で共に生きる一員であるという意識がなくなっている現状こそ、まさに持続不可能な社会だと考えています。若者が、地球の抱えている問題や現状を直視し、「自然」「社会」「人」「次世代」とのつながりを大切にする社会を再構築することができれば、人類社会は持続可能な社会へと近づいていくと考えています。

私の立場では、教育者として、子どもたちに、地域への愛着をもたせ、現状に対して正しい理解をするための手助けをすること。そして、ESD の学びの成果を、日本や世界の子どもたちや教育関係者と共有し合う水平的つながりと、企業や社会との垂直的つながりで共有していくことができるようにすることが、若者が果たすべき役割の一つだと考えます。